

NHK「JAPANデビュー」問題：報道一覧

平成 21 年（2009 年）4 月 5 日午後 9 時～10 時 13 分放送

「NHKスペシャル シリーズ JAPANデビュー 第1回 アジアの“一等国”」

Nスぺに「李登輝友の会」が抗議声明

【4月11日 産経新聞】

NHK総合テレビが5日に放送した「NHKスペシャル シリーズ JAPANデビュー 第1回『アジアの“一等国”』」の内容が偏向していたとして、日本李登輝友の会（小田村四郎会長）は10日、福地茂雄NHK会長あてに抗議声明を出した。

番組では、日清戦争後の日本による台湾統治について、一等国を目指して統治の成功を海外に誇示したものの、日台間の格差と同化という矛盾を抱え、やがて皇民化運動で日本文化を強制した一などとした。

この放送に対し、声明は「日本が一方的に台湾人を弾圧したとするような史観で番組を制作することは、公共放送として許されるべきではない」とした。

NHK広報局は「歴史を振り返り、未来へのヒントにしたいという番組の趣旨を説明し、理解していただきたいと考えています」としている。

「歴史歪曲と『台湾人』も激怒したNHK『超偏向』番組」

【4月16日発売 週刊新潮（4月23日号）】

台湾人が反日？ NHKスペシャルに多方面から抗議

【4月16日 中央社】台湾人反日？ NHK特別節目遭多方抗議

【中央社記者楊明珠・東京16日】「日本放送協会（NHK）」は五日、日本の台湾統治時代に関する特別番組を放映したが、その結果、多くの台湾人や日本人から「内容が著しく偏向し、台湾が反日であるとの誤った情報を与えるもの」と抗議されている。番組でインタビューを受けた台湾人ですら、強く怒っている。

NHKのこの特別番組の名は「シリーズ JAPANデビュー」。今年は横浜開港百五十周年に当たることから、主に日本が世界の舞台に登場してから百五十年間の大きな出来事を回顧するというものだ。その第一回のテーマは「アジアの“一等国”」で、日本の最初の殖民地—台湾を報道するものだった。

番組は、日本は世界の「一等国」となるため、台湾の反抗勢力を鎮圧し、台湾の原住民を博覧会へ連れて行って「展示」することで統治の成功を誇示し、さらには「差別待遇と同化」と言う矛盾を利用して差別を生み、皇民化運動を実施して台湾人の民族性を剥奪したと指摘する。

今日発売の「週刊新潮」の報道によれば、前総統府顧問の金美齡氏は「『偏向番組』の一語でしか形容できない。日本はいまだに自分を加害者とする自虐史観から抜け出せないでいる」と語っている。

台湾研究フォーラム会長の永山英樹氏は「この番組は一枚の写真に『人間動物園』との刺激的な表題を付け、それを利用して一九一〇年にロンドンで開かれた日英博覧会で、日本政府が台湾のパイワン族を連れて行って『見世物』として展示したと説明するが、パイワン族は伝統舞踏や模擬戦闘を披露したのであり、それは今日の日本が相撲や伝統舞踊、歌舞伎などを海外で公演するのと同じことだ」と述べる。

評論家の櫻井よしこ氏は、「番組での『人間動物園』の一語は日本政府が使用した言葉だと誤解させる。番組全体が歴史歪曲報道の連続だと言うことができる」と話す。

「週刊新潮」は、番組の中で何度も登場する八十七歳の柯徳三氏も憤慨していると指摘する。彼は二〇〇五年、東京で「母国は日本、祖国は台湾」と言う本を出している。

彼は番組の中でのインタビューで、「ようやくエリート学校の「台北第一中学」（現在の建国中学）に合格したが、日本人が多数を占める環境の中で常に差別を受け、偏見を持たれることもあった。たとえば豚の角煮や尻尾を弁当のおかずにするとからかわれた」と語っている。

番組では彼は反日のように見える。だが彼は「取材を受けたとき、日本の台湾統治は五〇%プラスで五〇%はマイナスと強調した。確かに差別は受けたが、日本は台湾に多くのものを残した。若し日本の教育がなければ、今日の私はない」と語っている。

また「NHKは取材の際、『もし不都合なことなら話さなくていい』と言うので、不都合なことと言うのは『日本の批判すべきこと』かと思った。しかし隠す必要はないと思っていたら、意外にもNHKは日本を批判する部分だけを取り上げて放映したので驚いた」と話す。

報道によると、柯徳三氏は「現在、台湾は正に中国に併呑されるかどうかと言う状況だ。台湾では日本統治時代のことを知る七十歳以上の人は日本が応援の手を差し伸べることを期待している。もしNHKの報道で台湾人は反日だと解釈されたら、きっと台日関係に影響する。だから番組の背後には中国の意図があり、台日を離間させようとしているのではないかと疑う」との憂慮を示している。

日本李登輝友の会事務局長の柚原正敬氏も今日、NHKの報道に対する見方を中央社の記者に語った。それによると同会の小田村四郎会長及び五名の副会長は連名で抗議声明を書き、九日に柚原氏からNHKに手交したが、それへの回答は同会には非常に不満なものだった。

同会はNHKが番組制作時の参考資料を公開することを望んでいる。また公開討論会の開催し、NHKの番組制作者、取材記者などの関係者に説明をさせることも検討しているところだ。

「なぜ台湾は親日か」との修士論文を書いたことのある日本人教師は中央社に対し、「あの番組を見た後、NHKに抗議の電話を入れ、昨年の北京五輪以降、報道には親中傾向が目立つと指摘したところ、何と職員から『台湾は中国の一部ではないのか』と言われ、さらに怒りが高まった」と話す。

東京在住で親台派の日本人女性は、番組の内容について「とんでもない」と語る。そして「日本が台湾人を奴隷にしたと告発しているようだ。このような番組によって、台湾人は実際には反日だと簡単に思わせることができる。自分の親台の心情もこれで撃破されてしまった」と言う。

NHK「偏向報道」政界に波及 5日放送「アジアの“一等国”」自民議連が意見書 今週中にも提出 「日本が一方的に台湾人弾圧」日台双方で批判続出【4月20日発行 夕刊フジ】(4月21日号)

NHK総合テレビが5日に放送した「NHKスペシャル シリーズ JAPAN デビュー 第1回『アジアの“一等国”』」の内容に対し、有識者らが「偏向・歪曲報道」などと批判している問題で、自民党の保守系議連「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」(会長・中山成彬元文科相)が近く、同局に質問形式の意見書を提出することが20日、分かった。問題はついに政界に波及することになった。

番組は、日清戦争後の日本による台湾統治について、一等国を目指して統治の成功を海外に誇示したが、日台間の格差と同化という矛盾を抱え、やがて皇民化運動で日本文化を強制した一などと放送した。

これに対し、日台の文化交流を進める民間団体「日本李登輝友の会」(小田村四郎会長)は10日、「日本が一方的に台湾人を弾圧したとするような史観で番組を制作することは、公共放送として許されるべきではない」という抗議声明を、NHKの福地茂雄会長あてに提出した。

声明には、元タイ大使で外交評論家の岡崎久彦氏、京大大学院の中西輝政教授らの名前も。また、ジャーナリストの櫻井よし子氏は週刊新潮で「全篇が“歪曲報道”の連続」と指摘し、評論家の金美齢氏も「“偏向番組”の一語に尽きます」と批判した。

議連では、日台双方から同様の批判が続出していることを受け、NHKあての意見書を作成しており、今週中にも提出するという。NHKの予算は毎年度、国会で承認を得ることが放送法で決められている。

李登輝友の会の抗議声明に対し、NHKは14日付で、担当のエグゼクティブ・プロデューサー名で「(番組は)日本が最初の植民地とした台湾に、近代日本とアジアの原点を探り、これから日本がアジアの人々とどう向き合っていけばよいか、未来を生きるヒントを探ろうとしたもの」「なにとぞ番組の趣旨をご理解いただきたいと思います」といった回答を寄せている。

だが、李登輝友の会の柚原正敬専務理事は夕刊フジの取材に「回答はとても納得できない。担当プロデューサーやディレクターにも出席してもらい、公開

討論会を呼びかけたい」と話している。

写真キャプション：永田町でも問題視され始めたNHKスペシャル

台湾が尊敬する日本人を悪人扱い NHKは北京放送局に変わったのか 【4月20日発行 東京スポーツ 堤堯「阿呆の遠吠え」第358回】

いよいよNHKがおかしい。さきごろ放映したスペシャル番組の第一回「アジアの“一等国”」だ。

日本の台湾統治時代を取り上げ、まずは「人間動物園」と称する写真を掲げる。ロンドンの日英博覧会に先住民のパイワン族を連れて行き、これを見世物にしたとする。彼らは民族の踊りや模擬戦闘を披露した。大相撲や歌舞伎の海外公演と同じだ。どこを押せば「人間動物園」なのか。

ついで台湾総督・後藤新平を登場させ、もっぱら極悪非道の圧政者として描く。後藤はこの「化外の地」を近代化した。四百キロの縦貫鉄道を敷き、道路、学校、病院などのインフラを整備した。主要輸出品の樟脳や米、砂糖キビの殖産にも務めた。中で最大の貢献は烏山頭水庫、別名「八田ダム」の建設だ。

本欄269回で触れたから詳述しないが、技術者・八田与一が11年がかりで完成させたこのダムのお蔭で、かつてはマラリアが猖獗（しょうけつ）を極めた15万ヘクタールの荒蕪（こうぶ）の土地が緑の沃野（よくや）に一変し、年に3毛作を可能にした。切り拓いた水路の長さは万里の長城の6倍におよぶ。台南地帯200万人の飲料水でもある。

のちに八田は戦死、夫人はこのダムに身を投げて夫に殉じた。八田夫妻の物語は台湾で有名だ。番組には八田の「ハ」の字も出て来ない。八田を任命したのが後藤新平だ。2人はいまでも台湾人に慕われる。

小欄は台湾の元総統・李登輝氏からジカに次の言葉を聞いた。「後藤新平は私の先生です。後藤新平が台湾の近代化をやり、私が民主化をやりました」

この番組を彼が見れば、いったい何というか。日本の植民地政策は、もっぱら悪と見なされる。しかしアジアを収奪し尽くした欧米列強のうち、日本のように巨費を投じてまでその地に福利をもたらした例があるか。八田夫妻のような献身の例があるか。寡聞にして知らない。

06年、台湾の雑誌「遠見」が20歳以上の1000人にアンケートした。「一番移住したい国」「一番尊敬する国」の筆頭に、日本が挙げられている（盧千恵『私の中のよき日本』）。

NHKは日本の国営放送だ。それが北京放送（中央電視台）に変じたと思えない。番組人事を総入れ替えせよ。さもなくば、受信料不払い運動で対応するしかない。

日台双方で批判続出…NHK「偏向報道」政界に波及 【4月21日 産経新聞】

NHK総合テレビが5日に放送した「NHKスペシャル シリーズ JAPAN デビュー 第1回『アジアの“一等国”』」の内容に対し、有識者らが「偏向・歪曲報道」などと批判している問題で、自民党の保守系議連「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」（会長・中山成彬元文科相）が近く、同局に質問状を提出することが20日、分かった。問題はついに政界に波及することになった。

番組は、日清戦争後の日本による台湾統治について、一等国を目指して統治の成功を海外に誇示したが、日台間の格差と同化という矛盾を抱え、やがて皇民化運動で日本文化を強制した一などと放送した。

これに対し、日台の文化交流を進める民間団体「日本李登輝友の会」（小田村四郎会長）は10日、「日本が一方的に台湾人を弾圧したとするような史観で番組を制作することは、公共放送として許されるべきではない」という抗議声明を、NHKの福地茂雄会長あてに提出した。

声明には、元タイ大使で外交評論家の岡崎久彦氏、京大大学院の中西輝政教授らの名前も。また、ジャーナリストの櫻井よし子氏は週刊新潮で「全篇が“歪曲報道”の連続」と指摘し、評論家の金美齢氏も「“偏向番組”の一語に尽きまず」と批判した。

議連では、日台双方から同様の批判が続出していることを受け、NHKに質問状を提出する準備をしている。NHKの予算は毎年度、国会で承認を得ることが放送法で決められている。

李登輝友の会の抗議声明に対し、NHKは14日付で、担当のエグゼクティブ・プロデューサー名で「(番組は)日本が最初の植民地とした台湾に、近代日本とアジアの原点を探り、これから日本がアジアの人々とどう向き合っていけばよいか、未来を生きるヒントを探ろうとしたもの」「なにとぞ番組の趣旨をご理解いただきたいと思います」といった回答を寄せている。

だが、李登輝友の会の柚原正敬専務理事は夕刊フジの取材に「回答はとても納得できない。担当プロデューサーやディレクターにも出席してもらい、公開討論会を呼びかけたい」と話している。

小林よしのり：ゴーマニズム宣言スペシャル「天皇論」欄外 【4月22日発売 S A P I O (5月13日号)】

NHKスペシャル「シリーズ JAPAN」の台湾の回を見て、わしは激怒した。わしの『台湾論』を完全否定している！ 李登輝も金美齢も蔡焜燦も林建良も黄文雄も全員、嘘を言っているのか？ 台湾人が日本に恨みしかないのなら、なぜ「海角7号」が台湾映画史上空前の大ヒットになった？ (P. 70)

台湾映画「海角7号」の試写を見た。台湾人の日本への切ない思いが若い世代にまで伝わっている。この無意識の日本への愛を、日本人が受け取れるのか？ NHKが「日台戦争」などというウルトラ・デマを流すような現状では、あの映画の意味が日本人には伝わらないかもしれない。(P. 71)

NHKスペシャル「シリーズ JAPAN」は3年に亘って日本を貶める嘘を垂れ流す予定だという。『天皇論』の連載を終えたら、NHKに戦いを挑まねばならぬだろう。わしはずっときちんと受信料を払ってきたのにふざけやがって！ 『ゴー宣スペシャル・NHK反日論』を作るか？（P. 72）

「恣意的編集ない」 NHKスペシャルへの抗議に放送総局長 【4月23日 産経新聞】

5日に放送された「NHKスペシャル シリーズ JAPANデビュー 第1回『アジアの“一等国”』」の放送内容が偏向していたとして、「日本李登輝友の会」（小田村四郎会長）が同局に抗議したことをめぐり、同局の日向英実放送総局長は22日の会見で「台湾の人たちが親日的であることは当然、十分承知していて、それを前提にして伝えた」との認識を示した。

その上で「番組の趣旨、文脈がある。全要素を平等に個別の番組で伝えねばならないとなると、クリアに物事を申し上げられない。（NHKの）放送全体の中で考えていただきたい。恣意（しい）的に編集することはない」と説明した。

NHK広報局によると、同番組に対し、21日までに電話やメールなどで1900件を超える反響が同局に寄せられ、「戦前の台湾統治の状況をよく伝えていた」「日本は台湾によいこともしており、一方的に悪いという描き方は納得できない」などがあるという。

放送総局長会見

【4月22日 NHK】

<http://www.nhk.or.jp/pr/keiei/toptalk/soukyoku/s0904.html>

Q：NHKスペシャル「JAPANデビュー」第1回「アジアの“一等国”」の内容の一部が偏っていると外部から抗議を受けた事について

A：（日向総局長）

番組は開国150年というタイムスケジュールの中で欧米列強を手本に近代化を進める日本の姿を描いた。一つの番組の中だけで全ての要素を平等に伝えるとストーリーがなりたたない面があるし、クリアに伝えられない。多角的な放送かどうかは放送全体で考えるべき。台湾総督府に残された膨大な資料を読み解きながら取材を進め、インタビューについても恣意的な編集をしたことは一切ないと聞いている。そういう考え方について理解を得ながら番組を伝えていきたい。

「NHKが反日偏向番組」 台湾統治で町村派議員批判 【4月24日 産経新聞】

自民党町村派の23日の総会で、5日放送のNHK番組（NHKスペシャル シ

リーズ・JAPANデビュー 第1回『アジアの“一等国”』) について、批判が相次いだ。

番組は日本の台湾統治を取り上げたが、稲田朋美衆院議員は「台湾は李登輝元総統など親日家が多いのに番組は反日の部分だけを偏向して報じた」と批判。町村信孝前官房長官も「番組をみたが率直に言って首をかしげた」と同調した。安倍晋三元首相は「週刊新潮も取り上げたが、番組はひどすぎる。関心を持ってこのシリーズを見てほしい」と呼びかけた。

中山成彬(なりあき)元文部科学相も記者団に、自らが会長を務める議連「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」としてNHKへ公開質問状を出す意向を示した。

渡部昇一：NHK台湾偏向報道への公開質問状

【4月25日発売 月刊「WiLL」6月号】

鳥居民：NHK特番の傲慢さが悲しい

【4月27日 産経新聞「正論」】

自民議連、「偏向番組問題」NHKに質問状

【4月29日 産経新聞】

NHK総合テレビが4月5日に放送した「NHKスペシャル シリーズJAPANデビュー第1回『アジアの“一等国”』」に、日台友好団体などから「内容が偏向している」と批判が上がっている問題で、自民党の議員連盟「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」(会長・中山成彬元文部科学相)は28日、NHKの福地茂雄会長あてに質問状を発送した。

質問状では、同番組の内容について、(1)1910年にロンドンで開催された「日英博覧会」の紹介で、日本人と台湾パイワン族との集合写真に「人間動物園」とのキャプションを表記していた(2)台湾で神社参拝を強制して、道教を禁止した一など13項目にわたり、資料の有無などの明示を求めている。

同番組をめぐるのは「日本李登輝友の会」(小田村四郎会長)がすでに、福地会長あてに、「日本が一方向的に台湾人を弾圧したとするような史観で番組を制作することは、公共放送として許されるべきではない」とする抗議声明を出した。

湯浅博：歴史を歪曲する方法

【4月30日 産経新聞「くにのあとさき」】

右であれ左であれ「事実そのものを封ずる空気」というのは、いやなものである。とくに、歴史を扱うドキュメンタリー映像には何度もだまされてきたから、ハナから事実と試してみないクセがついてしまった。哀(かな)しいことに。

つい最近も、台湾情勢に関心がある人ならすぐに「変だな」とテレビの小細工に気づく番組がまたあった。日本が横浜開港から世界にデビューして150年間をたどるNHKの「シリーズ・JAPANデビュー」である。

その第1回放送『アジアの一等国』を再放送で見た。テーマは50年に及ぶ日本の「台湾統治」だから、制作者は植民地政策の悪辣（あくらつ）さを暴き出すことに熱心だ。台湾人すべてを「漢民族」でくくるたぐいの荒っぽさが随所にあった。

なにより『母国は日本、祖国は台湾』の著者、柯徳三さん（87）ら知日派台湾人が、筋金入りの反日家として登場したのには仰天した。日本人も驚いたが、本人はもっとビックリした。放映後、柯さんは担当ディレクターに「あなたの後ろには中共がついているんだろう」と文句をいったと後に語っている。

異民族による台湾支配だったから、当時の柯さんらが差別を感じていたことは事実だ。番組でも、「私のいとこのお姉さんが、日本人の嫁になって日本へ行ったけれどね、戸籍が入らん。こういうのが差別でしょう」と憤懣（ふんまん）をぶつけた。柯さんはじめ、仲間の蔣松輝さん、藍昭光さんも差別されたときの悔しさを語っている。

ただ、「母国は日本」とまで公言している人々が、日本統治時代に関して洗脳、差別、恨みばかりを強調するだろうか。

同じ疑問を感じた視聴者は多い。だが、NHKは「日本とアジアとの真の絆（きずな）、未来へのヒントを見いだそうとしたものです」と無味乾燥な答えで押し切った。

それならと、義憤に駆られた衛星放送の「日本文化チャンネル桜」はさっそく現地に飛んで、番組に出演した柯さんらを交えて座談会を開いた。

藍さんは「終戦で台湾人による統治ができると考えた。だが、中国人がきて衛生、治安がでたらめになった。虐殺事件が起きて、戦前のよかった日本時代を思いだした」と語る。日本統治の良い面とは、教育、病院、鉄道などのインフラに集約できるという。

柯さんは「日本統治の善しあしは半分半分なんです。NHKには両方をいった。日本人がいやがる部分はカットしていいよといったのに、逆に悪い面だけを放映した」という。そして冒頭の「後ろに中共がいるんだろう」との怒りにつながる。

制作者がシロをクロと言いくるめる番組をつくろうと思えば、取材対象の見解からクロばかりを抽出すれば事足りる。そこには、善意ある台湾人の複雑微妙な心理は配慮されない。歴史事実を歪曲（わいきょく）してしまう古典的な手法である。

昨年も、神社と戦争の結びつきを強調した映画に『靖国』があった。靖国神社のご神体は鏡と剣であり、どちらが欠けても成り立たない。だが、中国人監督は半分の剣だけを摘出して「武」のイメージを極大化した。90歳の刀匠が節目に登場するのはそれが理由だろう。刀匠から「事前説明とは違う」と抗議されると、監督は「政治の圧力か」とそらした。

『アジアの一等国』であれ『靖国』であれ、「事実そのものを封ずる空気」はいやなものである。

NHK番組 自主的な検証が不十分だ **【5月1日 産経新聞「主張」】**

慰安婦問題を扱ったNHK番組をめぐる問題で、放送倫理・番組向上機構（BPO）の放送倫理検証委員会は、NHK幹部が放送前に政治家と面談したことに「重大な疑念」を示した。面談の前後に幹部が番組改編を指示したことが「自主・自律を危うくする」と判断されたためだ。

NHKも民放も放送法などで定められたこと以外は、誰からも干渉を受けず、自由に番組を編集することができる。だが、NHKは特に公共放送として高い公正さが求められている。そのためには、番組内容について多くの外部の意見を聞くことが必要だ。

また、NHK予算は国会の承認を必要としている。幹部が番組内容について政治家と面談することは、それほど不自然な行為ではない。「重大な疑念」があるとする検証委の指摘は疑問である。

ただ、検証委が政治的圧力の有無について判断を避けたのは当然だ。最高裁も昨年6月に下した判決で、政治家の介入について判断していない。検証委は、NHKと民放でつくるBPO内の3つある組織の1つだ。昨年4月、山口県光市の母子殺害事件の裁判をめぐる報道について「(被害者側に立った)一方的で感情的な放送は視聴者の不利益になる」との意見書を出した。これが公正な意見といえるのかどうか。検証委の結論には引きずられすぎない方がよい。

問題のNHK番組は平成13年1月に教育テレビで放映された。その前年暮れ、東京に元慰安婦や女性活動家を集めて開かれた女性国際戦犯法廷を取りあげたものだ。昭和天皇といわゆる「A級戦犯」を「強姦（ごうかん）と性奴隷制」の責任で弁護人なしに裁いた裁判である。

幹部の指示で、慰安婦の証言に疑問を持つ学者の談話が加えられるなど、少しはバランスを取り戻したが、それでも「主催者側に偏っている」「教育番組としてふさわしくない」との批判が絶えなかった。これらの批判を受けた自主的な検証は行われていない。

先月5日に放送された日本の台湾統治に関するNHKスペシャル「アジアの“一等国”」をめぐるでも、取材に協力した台湾の元医師らが「日本の功績も話したのにカットされた」などとNHKを批判している。

BPOの意見にとらわれず、NHK自身が視聴者の立場で番組を真摯（しんし）に検証することが大切だ。

河添恵子：『NHKに騙された！』－“反日台湾”を捏造した許されざる取材手法

【5月1日発売 月刊「正論」6月号】

偏向・歪曲報道問題 公開討論をNHK拒否

【5月2日 夕刊フジ（5月1日発行）】

「NHKスペシャル「シリーズJAPANデビュー 第1回『アジアの“一等国”』」（5日放送）の偏向・歪曲報道問題で、同局は1日までに、日台交流を進める民間団体「日本李登輝友の会」が要請していた同番組を検証する公開討論会の開催を拒否した。

これまで友の会は「日本が一方的に台湾人を弾圧したとするような史観で番組を制作することは、公共放送として許されるべきではない」とNHKに抗議。福地茂雄会長あてに、会長や担当プロデューサーらが出席する公開討論会の開催を求めている。

これに対し、担当プロデューサー名で先月28日付で出された回答書では、「私たちは番組内容が偏向していたり、事実関係に間違いがあるとは考えていません。そのため『番組を検証する』必要はないと判断しており、『公開討論会』の要請には応じかねます」としている。

【検証】NHKスペシャル 台湾統治めぐり「一面的」

【5月3日 産経新聞】

NHK総合テレビが4月5日に放送した「NHKスペシャル シリーズJAPANデビュー」の第1回放送「アジアの“一等国”」に対し、出演した台湾人のほか日台の友好団体、識者などから「一方的だ」と批判の声が上がっている。NHKは「番組にすべての要素を盛り込むことはできない」（日向英実放送総局長）と反論するが、番組は何を取り上げ、何を報じなかったのか。3日の第2回放送を前に、その“文脈”を検証する。（牛田久美、草下健夫）

【台湾民族と漢民族】

《一家は中国福建省から移り住んできた漢民族でした》

番組でそう紹介された元医師の柯徳三さん（87）は「私は漢民族ではない」と言い切る。

「台湾人の祖先は、宋代に南アジアの少数民族との混血が進んだ。その一部が約200年前に台湾に移り、南方系の先住民と結婚した。私でその移民から7代目。漢民族の血は1万分の1も入っていない」

台湾民族のHLA（ヒト白血球型抗原）を研究したことのある東京大学の徳永勝士教授は「民族の呼び方は、その人たちのアイデンティティを尊重すべき。（反発は）自然なことなのでは」と語る。北京政府は、台湾を国家として認めず「中国の一部」と主張する。漢民族という呼び方は、その文脈に沿った表現といえる。

【日台戦争!?!】

《台湾人の抵抗は激しさを増していきます。戦いは全土に広がり、後に日台戦争と呼ばれる規模へと拡大していきました》

番組出演者の蔣松輝さん(96)は「初めて聞く」と驚きを隠さない。「確かに祖先は抵抗し、治安は悪かったが、戦争は言い過ぎ」。柯さんも「思いも寄らない言葉だった」と語る。

NHKは「日本軍だけで死者は5000人近くにのぼった。学者も用いている」としているが、4000人以上はマラリアによる病死で戦死ではない。国立国会図書館の論文検索でも「日台戦争」は1件もヒットしない。学説と呼べるのだろうか。

【人間動物園…】

このほかにも、数多くの疑問が示されている。

「台北一中の生徒は台湾人が2人だけで厳しい制限付きだったというが、教育は開かれていた」(台湾協会、小原孝弼さん)

「樟脳(しょうのう)生産や港湾整備を取り上げ《金のなる島》と強調したが、日本の統治への高い評価が抜け落ちている」(日本李登輝友の会、柚原正敬事務局長)

「(先の大戦で)21万の台湾人を戦場にかり出したと言うが、その10倍も(日本軍への)志願者がいた事実は報じていない」(日本文化チャンネル桜、水島総代表)

1910年にロンドンで開かれた日英博覧会で台湾の先住民族を紹介したことを《人間動物園》と表現したことも、自民党議員らから反発を集めた。

【多面的か?】

出演者の柯さんが「日本統治の功罪の両面を50%ずつ話したが、NHKが取り上げたのは罪の部分だけ」と評したこの番組が放送された後、NHKには4月末までに2500件を超える声が寄せられた。「多くが『一方的だ』という意見」(NHK広報部)だったという。放送法3条は「意見が対立する問題は多くの角度から論点を明らかにすること」と定めている。台湾研究フォーラムの永山英樹会長は「日本が侵略者だというストーリーに合わせて証言、史実を切り貼りしている。一面的すぎる」と評する。

日向総局長は、多面性の確保については「放送全体の中で考えてほしい」としている。第2回以降の放送が注目される。



【用語解説】NHKスペシャル「JAPANデビュー」

NHKが今後3年間にわたって「これから日本はどこに向かい、私たちはどんな生き方を選ぶのか」(番組広報資料)をテーマに、歴史から教訓を探る目的で放送する大型企画番組「プロジェクトJAPAN」の一シリーズ。NHKによると(1)アジアの“一等国”(2)天皇と憲法(3)貿易で立つ国家(4)軍事強国—の4回を放送予定。

潮匡人：NHK反日プロジェクト

【5月6日 産経新聞「断層」欄】

NHKの「プロジェクト JAPAN」。看板とは裏腹に、内容は「プロジェクト・アンチ JAPAN」と題すべき反日番組と墮している（「正論」6月号「クロスライン」拙稿参照）。

批判が集中したのは4月5日放送「アジアの“一等国”」。川添恵子氏は『NHKに騙（だま）された』“反日台湾”を捏造（ねつぞう）した許されざる取材手法」（前掲「正論」）を指弾。湯浅博氏も「歴史を歪曲（わいきょく）する方法」を批判（4月30日付産経）。小林よしのり氏も西尾幹二氏も批判する。

批判を浴びたNHKはどうしたか。「日本李登輝友の会」の公開質問に、番組プロデューサーはこう「回答」した。

「私たちは番組内容が偏向していたり、事実関係に間違いがあるとは考えていません」

われわれはそう考えていない。明らかな「偏向」と考えている。現に取材を受けた当事者が「騙された」と言っているのだ。公共放送としてほおかぶりを決め込むのは許し難い。

政府が「村山談話」を閣議決定し、踏襲している以上、公共放送として、その歴史認識を踏襲せざるを得ません。私がNHK会長なら、そう「回答」したかもしれない。いずれにせよ、特殊法人（NHK）特有の役人根性に染まっている。

政府公認の歴史観でも、こう言えよう。日本は台湾統治に成功した。だからこそ朝鮮半島では失敗も犯した。NHKはそうした視点も放棄した。

番組は3年間続く。その間、受信料を強制徴収する正当性が回復する見込みはない。 （評論家）

川瀬弘至：“証人” NHKに憤り

【5月6日 産経新聞「異論暴論」欄】

■ “反日台湾”を捏造した許されざる取材手法 河添恵子

4月5日に放映されたNHKスペシャル「アジアの“一等国”」をめぐる問題で、番組に登場した台湾人の元医師が、「日本のよいところも話したのに放送されたのは悪いところだけ。NHKに利用された」などと、一方的な放送姿勢を批判している。この番組に対しては日台友好団体などから「反日台湾を印象づけるためとしか思えない」との抗議も上がっており、元医師の証言は注目を集めそうだ。

「正論」6月号の『NHKに騙された！』“反日台湾”を捏造（ねつぞう）した許されざる取材手法」と題したノンフィクション作家、河添恵子氏のレポートの中で、痛烈な批判をしたのは柯（か）徳三さん（87）。番組では、戦前の台

湾で日本人から差別を受けた“生き証人”として登場し、「学校に台湾料理の弁当を持っていくと日本人に笑われるから、日本式の弁当にしてくれと母に頼んだ。母は苦勞したと思う」などと証言していた。

だが、河添氏が柯さんから聞いた話では、柯さんがNHKの取材に対し、日本統治時代に台湾のインフラ整備が進んだことや教育が充実したことなどを長時間説明したのに、すべてカットされたという。また、戦後の日本が台湾を見捨てたことへの不満を述べたつもりだったのに、番組では、まるで戦前の日本に対する批判のように編集されたという。

6月号ではこのほか、連載中の「NHKウォッチング」でも、「台湾風俗の展示を勝手に『人間動物園』と名付けて批判したNHKの放送は事実を歪曲（わいきょく）するもの」などと指摘。番組の問題点を詳細に論証している。

(川瀬弘至)

「一方的ではない」 Nスペ「偏向番組問題」で福地会長 【5月14日 産経新聞】

日本の台湾統治を取り上げたNHKスペシャル「アジアの“一等国”」が偏向していたとして、日台友好団体や識者などから批判が高まっている問題で、NHKの福地茂雄会長は14日の会見で「あの番組はいいところも随分言っていると思った」と、内容に問題はないとの認識を示した。

福地会長は「(当時の) 産業・インフラの芽が今の台湾の産業につながっているという気がしたし、教育でも規律正しい子供たちが映っており、一方的とは感じなかった。文献や証言に基づいているし、(取材対象の) 発言の“いいとこ取り”もない」と評価した。

4月5日放送のNHKスペシャル「シリーズJAPANデビュー 第1回 アジアの“一等国”」の内容が偏っていると外部から抗議を受けた事について 【5月14日 NHKトットーク「会長記者会見要旨」】

(会長)

番組を見たが、当時の日本が台湾で行った良いところをいくつも取り上げていたし個人的には内容が一方的だったとは感じなかった。インタビューを偏って編集した事実はなく、2万6000冊の文献や現地の人たちの証言を踏まえて事実に沿って制作したと担当者から報告を受けている。

小林よしのり：ゴーマニズム宣言スペシャル「天皇論」欄外 【5月13日発売 「SAPIO」(5月27日・6月3日合併号)】

NHKの「アジアの一等国」の歴史偽造に直ちに対処した「週刊新潮」は良かった。情報のスピードでは『ゴーマニズム宣言』はネットや週刊誌に負ける。NHKに

は未だ怒りが収まらない。昔からずっと律儀に受信料を払っているのだから、絶対にあの極左・中国ケツ舐め番組は中止させねば！（P.61）

NHK反日報道に約1300人が抗議 東京・渋谷 台湾や名古屋などでも同時デモ 【5月17日 世界日報】

NHKの偏向報道への抗議デモが十六日、東京・渋谷の宮下公園からNHKまで行われ、賛同者約千三百人が「台湾と日本を分断するNHKを許さない」などとシュプレヒコールを上げた。デモ隊は日本李登輝友の会や草莽全国地方議員の会、日本文化チャンネル桜千人委員会有志の会などが主催し、福地茂雄NHK会長あての抗議声明を手渡した。

問題となっているのは先月五日、NHK総合テレビが放送した「NHKスペシャル シリーズ JAPANデビュー 第1回『アジアの“一等国”』」。NHKはこの中で、台湾住民のインタビューを恣意的に編集。この自虐史観に基づいた反日的報道が、公共放送としてあるまじき偏向報道として、批判の俎上に上っている。

デモ行進前、NHKの近くで開催されたリレートーク集会では、上智大学の渡部昇一名誉教授が「名門紙ロンドン・タイムズは戦前、98%の真実の中に意図的な2%の嘘を織り交ぜた。それはドイツに関するもので、パリに侵攻したドイツ兵が、赤ん坊を放り上げて銃剣で突き刺したなどといった報道はすべて嘘だった。NHKはおおむね、良識ある報道と言ってもいいが、極めて悪質な2%問題がある。これは言論機関を暴力機関に変える」と指摘し、政治的な意図を持った報道姿勢の危うさを強調した。

また日本李登輝友の会の小田村四郎会長は「(NHKのJAPANデビューは)明治四十三年の日英博覧会での台湾の高砂族の踊りを『人間動物園』と表現したり、後藤新平を残酷非道な弾圧者として扱った。自虐史観に基づくこの誤った報道に対し二度、抗議声明を出したが、NHKは開き直るだけだった」と批判した。

同日、台湾の台北でもNHK台北支局前で抗議集会が行われるとともに、青森市や名古屋、福岡市でも各NHK支局への抗議デモが行われた。

日台友好団体がNHKに抗議デモ 【5月30日 MSN産経ニュース】

NHKスペシャル「JAPANデビュー アジアの“一等国”」に出演した台湾人や日台友好団体から放送の内容が「一面的だ」と批判が相次いでいる問題で、草莽（そうもう）全国地方議員の会など15団体は30日、東京、大阪などのNHK施設周辺で抗議デモを行った。

NHK放送センターがある東京・渋谷で行われたデモには約1100人が参加。

「放送内容を訂正せよ」などと訴えた。台湾人から寄せられた「言うべきことを言わず、好む所を選んで曲解した。人をばかにした、自尊心のない行為だ」などとのメッセージが流れ、通りすがりの家族連れも耳を傾けていた。

番組は日本の台湾統治を特集。先住民の写真に「人間動物園」の字幕をつけて“見せ物”にしたと紹介するなど、事実との相違が各方面から指摘されている。

この問題では、台湾日本人会と日本企業などで構成する台北市日本工商会が「日台交流に支障をきたすおそれがある」と、懸念を表明する意見書をNHKに送っている。

NHKの台湾特番で友好団体ら抗議デモ 【5月31日 産経新聞】

NHKスペシャル「JAPANデビュー アジアの“一等国”」（4月5日放送）に出演した台湾人や日台友好団体から番組内容が「一面的だ」と批判が相次いでいる問題で、草莽（そうもう）全国地方議員の会など15団体は30日、東京、大阪、名古屋で抗議デモを行った。

NHK放送センターがある東京・渋谷で行われたデモには約1100人が参加。外交評論家の加瀬英明氏らが「日本統治時代に行った産業振興、教育振興、インフラ整備は高く評価され、日台間には温かいきずながある」と指摘し、「日本統治の負の側面だけ切り取って侵略のつめ跡とする編集は、視聴者に誤解を与える」と訴えた。台湾からは「言うべきことを言わず、好む所を選んで曲解した。自尊心のない行為だ」などと批判のメッセージが寄せられ、デモの参加者は「放送内容を訂正せよ」と声を上げた。

この問題では、台湾日本人会と日本企業などで構成する台北市日本工商会が「日台交流に支障をきたすおそれがある」とした意見書をNHKに送っている。

「偏向NHK」抗議デモ 「中国の核実験」問題にも波及 【5月31日 世界日報】

NHKの偏向報道に抗議したデモが三十日、東京・渋谷のNHKホール前のケヤキ並木で行われた。千百五十人に膨らんだ参加者は「台湾と日本を分断するNHKを許さない」などとシュプレヒコールを上げ、番組制作責任者の罷免と「JAPANデビュー」の放送中止をNHKに求めた。

問題となっているのは先月五日、NHK総合テレビが放送した「NHKスペシャル シリーズJAPANデビュー 第1回『アジアの“一等国”』」。

この番組でNHKは、台湾住民のインタビューを恣意的に編集。この自虐史観に基づいた反日的報道が、放送法に反した偏向報道として批判の俎上に上っている。

デモ前に行われたリレー・トークで拓殖大学の藤井巖喜客員教授は「放送の

自由は大事だが、嘘をつく自由はない。NHKの解体的出直しを求める」とした上で、「かつてNHKが作った『シルクロード』で、二十七万人ともいわれる日本人観光客が出掛けていった。だが、楼蘭は中国の核実験が行われたすぐそばだ。現地で放射能に汚染され、がんや白血病になった人が相当数いる懸念がある」として、その実態調査の必要性を訴えた。

さらに札幌医科大学の高田純教授が「シルクロードロマンを煽ったNHKは、核実験場であることを隠した偽装番組だ。中国は広島の子三〇七五発分のメガトン級の核実験で遺跡を吹き飛ばし、NHKはその事実の隠蔽に加担した。日本人の中には、核爆発に巻き込まれたり、白血病で亡くなった人がいるかもしれない。西遊記の主演女優であり現地ロケをした夏目雅子さんは、なぜ亡くなったのか」と問題を提起した上で、「NHKは多くの日本人を危険な『核の砂漠』に誘導した。NHKはシルクロードの核被害者から訴えられることになる」と、メッセージを寄せた。

同デモは今月中旬の初回に続き、日本李登輝友の会、草莽全国地方議員の会、日本文化チャンネル桜二千人委員会が主催した。

NHK台湾特番 自民有志が議連

【6月4日 産経新聞】

NHKスペシャル「アジアの“一等国”」（4月5日放送）に出演した台湾人や日台友好団体から番組内容が「一方的だ」と批判が相次いでいる問題で、自民党有志議員が3日朝、報道内容を検証する「公共放送の公平性を考える議員の会」（仮称）の準備会合を国会内で開いた。

安倍晋三元首相、中川昭一前財務相、菅義偉自民党選対副委員長ら30人近くが会合に出席。会長に古屋圭司党広報本部長を内定するとともに、今月中旬に総会を開くことを決めた。

日本の台湾統治を取り上げた同番組は、1910年の日英博覧会で、台湾の先住民を紹介したことに関連し「人間動物園」と表現したが、これについて中山成彬元国土交通相がNHKに再質問を行う。同会では中山氏への回答を踏まえ、報道内容を検証、再放送に際し“改善”を求めていくことにしている。

NHK番組で自民有志“偏向”検証へ議連発足

【6月4日 18:55 スポーツニッポン】

日本統治下の台湾を取り上げたNHK番組が偏向しているとして、自民党の有志議員が報道内容を検証する議員連盟「公共放送の公平性を考える議員の会」（仮称）を11日に発足させる。呼び掛け人の安倍晋三元首相が4日、町村派総会で明らかにした。

問題としているのは4月5日放送の「NHKスペシャル シリーズ JAPAN デビュー第1回アジアの一等国」。「日本の統治はひどかったという一方的な

内容にしている」(安倍氏)との観点から、公共放送の在り方を議論する方針だ。初会合には台湾人評論家の金美齡氏を招き、番組に関する意見を聞く。

既に自民党の「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」(会長・中山成彬前国土交通相)が4月下旬に質問状を送付し、NHKは「台湾や英国、フランスの史料などを読み込み、数多くの研究者を取材している」と反論。同会は回答が不十分として6月3日に再質問状を送った。

「日本の台湾統治」NHK番組 「弾圧の史観」抗議続く 友好団体や地方議員 局側は偏向否定 【6月5日 読売新聞「メディア」】

日本の台湾統治を扱ったNHKの番組を巡り、日台友好団体などから「偏向している」との批判が相次ぎ、NHKへの抗議活動が活発化している。先月30日には東京・渋谷のNHK構内に入ったデモの参加者が警察官に制止されるトラブルも。一方、4日の定例記者会見に臨んだ福地茂雄会長は「一方的な内容ではないと申し上げたことは、今も変わらない」と述べ、両者の主張は平行線をたどる。

問題となったのは、4月5日に放送された「シリーズJAPANデビュー」の第1回「アジアの“一等国”」。番組では、日本にとって初の植民地となった台湾統治の実態を、当時を知る人々の証言や「台湾総督府文書」などで判明した事実から検証していった。

これに対し、日台友好団体「日本李登輝友の会」が同月9日付で、「日本が一方的に台湾人を弾圧したような史観で制作されている」「台湾人の証言を都合良く操作した」などとする抗議声明をNHKに提出。これに同調する地方議員の会などが呼びかける形で、先月16日以降、東京や大阪、名古屋、台北などで抗議活動が行われた。トラブルのあった先月30日の東京でのデモには約1100人が参加している。

番組を問題視する動きは政界にも波及。自民党の議員連盟「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」(中山成彬会長)がNHKに質問状を送った。さらに、NHK経営委員会でも、一部委員から「説明責任が問われている。真摯(しんし)に対応すべきだ」という意見が出された。

こうした動きに対し、NHKの日向英実放送総局長は、「一つの番組だけの中ですべての要素を平等に伝えようとストーリーがなりたたない面があるし、全体像をクリアに伝えられない。多角的な見方がされているか否かは、(個々の番組ではなく)放送全体で考えるべきだ」と反論する。抗議団体が訂正・謝罪放送を要求していることについても、事実と反する内容ではないことを理由に、応じる意思を見せていない。論争は長期化の様相を呈している。

東京工科大学の碓井広義教授(メディア論)は、「私も番組を見ていたが、日本の統治下の肯定的な部分に目を向けず、今も台湾で反日感情が強いと受け取られるような作りになっていたことに、違和感を覚えた。そういった配慮を欠

いたことで、結果的に本来ならなくてもよい政治家の介入を招くスキを、自ら作ってしまった。その点は残念だ」と話している。

自民党：公共放送を考える議員の会が発足総会 **【6月12日 毎日新聞】**

NHKスペシャル「シリーズ JAPANデビュー 第1回アジアの“一等国”」（4月5日放映）の内容が偏向していたなどとして、自民党の国会議員有志でつくる「公共放送のあり方について考える議員の会」が11日発足した。会長に古屋圭司氏（衆院議員）、事務局長に稲田朋美氏（同）が就任。国会内で開かれた設立総会には森喜朗、安倍晋三の両元首相、中川昭一前財務・金融相ら約60人が出席した。

番組は、日本による台湾統治について、関係者の証言や歴史資料「台湾総督府文書」などから検証。一部の市民団体がNHKに対して「反日で貫かれている」などと抗議したほか、自民党の議員連盟「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」（中山成彬会長）も質問状を出した。

NHK：「番組内容偏向」の指摘でHPに回答文書 **【6月18日 毎日新聞】**

NHKは17日、NHKスペシャル「シリーズ JAPANデビュー 第1回アジアの“一等国”」（4月5日放送）について自民党の国会議員有志らが「内容が偏向していた」などと指摘している問題で、主な批判について回答する文章を、同局ホームページ（HP）上の「プロジェクトJAPAN」に掲載した。

番組は日本による台湾統治について、関係者の証言や歴史資料「台湾総督府文書」などから検証した。制作姿勢について「一次史料や研究者への取材にもとづいて制作しています。特定のイデオロギーや歴史観にもとづくものではありません」などと説明している。

NHKスペシャル偏向批判でネットに説明文 **【6月18日 産経新聞】**

NHKスペシャル「シリーズ JAPANデビュー 第1回『アジアの“一等国”』」（4月5日放送）の内容が偏向していたとの批判が高まっている問題で、NHKは17日、同番組のホームページに「一次史料や研究者への取材に基づいて制作した。特定のイデオロギーや歴史観に基づくものではない」とする説明文を掲載した。

説明文は「台湾が親日的であることは番組でも伝えている」とした上で、番組が使用した「人間動物園」「日台戦争」などの用語の根拠を挙げたほか、台湾人へのインタビューも「不適切な編集はない」と述べている。

同日の会見で日向英実放送総局長は「一般の視聴者にも、きちんと説明した方がよいと考えた。見解はこれまでと変わらない」とした。

いまだに続く台湾番組への抗議 NHKは亡国のメディアか？

【6月22日 サーチナニュース「コラム」】

http://news.searchina.ne.jp disp.cgi?y=2009&d=0622&f=column_0622_003.shtml

東京の大久保にあるお気に入りの台湾家庭料理の店にいったとき、そこで客の台湾人らと昨今の日台関係について議論になった。ある民進党支持者の台湾人企業家はいう。「日本は台湾を見捨てようとしているのか。あの番組をみればそういう気がする」。あの番組とは、NHKのシリーズ「JAPANデビュー」の第一回「アジアの“一等国”」である。

いまさら説明の必要もないだろうが、台湾が日本統治を受けた歴史のネガティブ面を特集したこの番組は、4月5日の放映日以来、親台湾の日本人や親日本の台湾人から「偏向報道」「捏造報道」「意図的に日台関係を悪化させるために作られた番組」と抗議の声が上がっている。その抗議の声は日増しに大きくなり、先日は自民党の国会議員ら60人以上があつまって「公共放送のあり方について考える議員の会」も発足。番組が放送法第3条の2（政治的公平、事実をまげない報道など）に違反していないかを検討するという。

この番組は私も見た。確かにNHKらしい自虐史観が根底にながれ、意図的なインタビューのカットや事実誤認もちらほら。ただ、放送局の編集権の自由を大きく逸脱するほど政治的不公平かという点、このくらいのインタビューの刈り込みや脚色、イデオロギー色はこれまでのNHK番組にも多々あった。ただ、テーマが台湾であったということが、放送日から2カ月以上もたって今なお激しい抗議の声が上がっているが理由ではないかと思う。

今、台湾は中国に事実上、併呑されかけている危機的状況が背景にある。親中国の馬英九（＝写真）政権になってから、李登輝、陳水扁ら両氏が少しずつはぐくんできた台湾人アイデンティティと独立への期待がみるみるしぼんできた。関税撤廃を軸とした経済協力枠組み協定（ECFA）が調印されれば経済的にはほとんど統合されるようなものだ。今年8月には、福建省アモイから台湾・金門島までの遠泳大会という平和イベントを理由に、台湾側の軍事防護策が一時撤去されるという。馬総統が2012年に再選されれば、台湾海峡が事実上中国の支配下に置かれる、というのは冗談ではないかもしれない。

自由と自立を望む台湾人にとっても、日本の安全保障の観点からも、この流れはなんとか食い止めたいのだが、今の米国には中国に抵抗できる余裕がない。せめて日本が台湾との経済的結び付きを強化するなどして、台湾の中国依存に棹さしてほしいと民進党などは期待している。そういう中でNHKが日本の親台湾世論に冷水をかけたわけだ。

媚中派と呼ばれるNHKが中国からなんらかの利益供与をうけて、日本人の

対台湾世論の操作を請け負った、などと陰謀論を言うつもりはない。しかし台湾については、単に表現の自由で片づけられない、日本の安全保障と台湾の未来という切実な問題が絡むということを知っていてこの番組を作ったなら、「公共放送」の皮を被った亡国のメディアといわれても仕方ないだろう。

(執筆：中国ウォッチャー 三河さつき)

視聴者ら 8300 人 NHK を訴え 「虚偽の事実捏造。極めて悪質」 台湾統治で偏向報道

【6月25日付「夕刊フジ」】(6月24日発行)

日本の台湾統治を取り上げた、NHKスペシャル「アジアの“一等国”」(4月5日放送)の偏向・歪曲問題で、8300人を超える視聴者らが25日、放送法や受信契約に違反する番組で精神被害を受けたとして、NHKを相手に計約8300万円の損害賠償を求める集団訴訟を東京地裁に起こすことが分かった。

■8300万損害請求

問題の番組は、台湾統治を現地取材や歴史的資料をもとに振り返ったものだが、放送直後から「全編が“歪曲報道”の連続」(ジャーナリストの櫻井よしこ氏)、「日本の台湾統治を批判するため、台湾人の証言を都合よく操作した」(日本李登輝友の会)などと批判が続出している。

訴状によると、原告らは、同番組について「事実に反し、一方的な『やらせ』取材をし、虚偽の事実を捏造し、極めて悪質で偏向したものである」と断定。政治的に公平で、事実に即した良質な番組をつくるという、放送法や受信契約に違反しており、「不法行為として損害賠償を請求できる」としている。

■台湾人の証言も開示へ

裁判ではNHKの取材を受けたが、「インタビューを恣意的に編集された」と激怒し、悲しんでいる台湾人の証言も開示される予定。

今回の提訴は東京中心だが、関係者によると、今後、同様の訴訟を全国でNHKに起こす準備が進められているという。

同番組は、永田町でも問題視されており、自民党の安倍晋三元首相や中川昭一前財務相ら有志議員が11日、内容を検証する議員連盟「公共放送のあり方について考える議員の会」を発足させている。

NHK番組で8千人が提訴 台湾支配報道は「捏造」

【6月25日16:20 共同通信】

戦前の台湾に対する日本の植民地支配を報じたNHKのドキュメンタリー番組は「事実を捏造し、放送法違反に当たる」として、歴史研究者や視聴者ら8389人が25日、NHKに1人当たり1万円の損害賠償を求め東京地裁に提訴した。番組は4月5日放送のNHKスペシャル「シリーズ・JAPANデビュー」の第1回「アジアの“一等国”」。植民地時代の台湾について、台湾総督府文書や

当時を知る住民への取材を基に構成した。

原告は小田村四郎・元拓殖大総長や中村繁・昭和史研究所代表のほか、インターネットなどを通じ集まった視聴者ら。

訴状で原告側は「番組は当時の日本がいかに関地の住民を虐待、差別、利用したかを延々と述べている」と主張。放送後に現地調査をした結果、出演した住民のほぼ全員がNHKに訂正と抗議を求めたとし「悪質なやらせ取材などがあつた」としている。

NHK広報局は「訴状を受け取っておらずコメントできない。番組内容には問題がなかったと考えている」としている。

NHK相手に 8400 人が集団提訴 「JAPANデビュー」歪曲報道で 【6月25日 17:22 産経新聞】

NHKスペシャル「JAPANデビュー アジアの“一等国”」に出演した台湾人や日台友好団体などから番組内容に偏向・歪曲（わいきょく）があつたと批判が相次いでいる問題で、視聴者約 8400 人が 25日、放送法などに反した番組を見たことで精神的苦痛を受けたとして、NHKに計約 8400 万円の損害賠償を求める訴えを東京地裁に起こした。

問題の番組は日本の台湾統治時代を取り上げたもので、4月5日に放送された。放送直後から「日本の台湾統治を批判するため、証言をねじ曲げている」などの批判が相次いだ。

原告は訴状で番組について、「取材に応じた台湾人の話を、一方的に都合良く編集して使っている」などと指摘。具体的には（1）台湾統治下の暴動を「日台戦争」と表現（2）「日英博覧会」でパイワン族の生活状況を実演紹介した企画を「人間動物園」と表現などを挙げ、番組にはやらせや事実の歪曲・捏造（ねつぞう）があり、放送法に違反する番組だった一などと主張している。

原告には、約 150 人の台湾人も含まれている。原告側は今後、出演した台湾人や友好団体の関係者の証人申請や、出演者らがNHKに出した抗議文などの提出も検討している。また、東京、大阪、名古屋では、放送に反発する地方議員や有識者ら有志が抗議デモを行った。

NHK広報局は「訴状を受け取っていないのでコメントできない。番組の内容には問題がなかったと考えている」としている。

「シリーズ・JAPANデビュー」

NHKによると、近代国家を目指し世界にデビューした日本がなぜ国際社会で孤立し敗戦を迎えたのかを考え、未来へのヒントを探るのが企画の狙い。テーマは「アジア」「天皇と憲法」「貿易」「軍事」の4つで、うち「アジアの“一等国”」は、その第1回。近代日本とアジアの原点を台湾統治に探る内容としている。

【NHK提訴】責任見失う公共放送 【6月25日 産経新聞】

批判が相次いでいたNHKスペシャル「JAPANデビュー アジアの“一等国”」はついに法廷で争われることとなった。番組の取材方法や編集の在り方に、これほど注目が集まったのは極めて異例だ。

「南京大虐殺」「従軍慰安婦」「強制連行」など、これまで俎上にのぼった近現代史の代表的論点をたどると、もともとの発端は今回の放送に使われた「日台戦争」という言葉同様、後に一部学者や出版物から編み出された造語に始まったものが多い。

日本のメディアが盛んにこれを取り上げ、定着した後に、計り知れない禍根をもたらす。同盟国の米国で可決された「従軍慰安婦」をめぐる対日非難決議のように、外交の足かせとなったり、日本の国が不当におとしめられていく。

そうした悪循環の構図やメディアの悪意にすでに多くの国民が気づき、真剣に憂慮している。公共放送の番組作りに厳しい目が向けられる理由だ。

平成13年にもNHKは「ETV2001 問われる戦時性暴力」と題した番組を放送した。「女性国際戦犯法廷」という名の模擬裁判を取り上げたものだが、この模擬裁判の企画趣旨は「東京裁判では裁かれなかった旧日本軍の性奴隷制を裁く」として、日本政府や昭和天皇に有罪判決が出される—というものだった。

政治家の圧力と番組改変にばかり注目が集まったが、そもそも歴史検証に名を借りたわが国を貶（おとし）めるような番組作りだったのではないか、という疑問は今も根強くある。

今回の訴訟は8000人を超える大規模提訴となった。批判がこれほど広がった背景には、インターネットの発達がある。メールやメルマガなどさまざまなデータが瞬時に駆けめぐり、多くの国民が自らの考察や意見を自由に表明できる。

その多くがNHKに懐疑的だったり批判的な内容で、それらは次々と広がっていく。なかには粗暴な言葉遣いや中傷、邪推もあるが、共感できる指摘や豊かな学識に基づく適切な考察、核心をついた推理も少なくない。

これほど多くの視聴者が違和感を覚え、訴訟提起に至ったことは、さらに多くのサイレント・マジョリティがいることを意味する。NHKはそうしたことを肝に銘じ、公共放送としての番組作りがいかにあるべきかをあらためて問い直す必要がある。（安藤慶太）

【NHK提訴】JAPANデビュー どこが問題になっているのか 【6月25日 18:42 産経新聞】

集団訴訟が提起されたNHKスペシャル「シリーズ・JAPANデビュー アジアの“一等国”」。NHKはこれまで放送内容には問題はなく、偏向もしていないと強調している。しかし、8千人を超える原告の数は今も増え続けており、

第2次提訴も検討されている。一体、番組のどこの部分が問題とされているのか。

日台戦争

《日本軍に対し、台湾人の抵抗は激しさを増していきます。戦いは全土に広がり、のちに「日台戦争」と呼ばれる規模へと拡大していきます》

台湾と日本の中に戦争の過去はない。出演した台湾人からも「先住民族の抵抗なら治安の悪化だ」「戦争は言い過ぎ。NHKの誤り」などと抗議があがっている。

NHKは「日台戦争」という言葉について、日本の大学教授らが使っていると根拠を挙げた。しかし、「平成に入って用いられた造語。確かに『日台戦争』という言葉の一部の大学教授が使っているが原典は戦争の定義もしておらず、治安回復のための掃討戦に過ぎない」（日本李登輝友の会関係者）という。

人間動物園

《イギリスやフランスは博覧会などで植民地の人々を盛んに見せ物にしました。人を展示する「人間動物園」と呼ばれました》

NHKは、1910年の日英博覧会のパイワン族の写真に、「人間動物園」の文字をかぶせた。フランスの学者、ブランシャール氏の共著「人間動物園」などを参考にしたという。

しかし、当時イギリスやフランスでそうした言葉が使われていたのかわかるとは明らかにしていない。また日英博覧会には、パイワン族だけでなく、日本の村やアイヌの村、力士も参加していた。

これを今も栄誉としている村もあり、「日本政府がパイワン族の実演を『人間動物園』と呼んだことはない」（訴状）、「パイワン族に対する人権問題」（出演者）と訂正を求める声が出ている。

番組放映直後から、「日本の台湾統治の悪い面ばかりを強調している」「明らかに制作者側の悪意が感じられる」などの声が続出。「後藤新平を弾圧差別の首謀者として描くなど総じて台湾統治の負の側面をことさらに強調しており、わが国を不当に貶めた番組」だという怒りも。

経営委員からの疑義

NHKは膨大な資料と関係者への取材を踏まえた番組で事実に基づき、問題はないとホームページで説明している。しかし、5月26日のNHK経営委員会では、小林英明委員（弁護士）が「日本と台湾の間に戦争がなければ、そのような内容を放送することは放送法に違反する」「学会で多数説でなく、少数説や異説なら、そう説明するのが正しい放送では？」と問う場面があった。

日向英実放送総局長は「一説とは考えていない」と答え、多数説なのかは、次回へ持ち越されることになった。経営委員会内部では個別の番組の是非を論じるのを差し控える空気もあるようで、小林委員の意見に他委員が「そういう意見が経営とどう関係しているのですか」とクギを刺す一幕もあったという。

パイワン族 質問状提出へ

【6月26日 産経新聞3面】

「事実を捏造している」として集団提訴されたNHKスペシャル“アジアの一等国”について、番組内で「人間動物園の見せ物になった」と紹介された台湾の先住民族の人々が、「放送で辱めを受けた」として、放送の意図や経緯についての公開質問状を近くNHKに提出することが25日、分かった。

質問状を用意しているのは台湾政府で原住民教育に携わるパイワン族の長老、パジェルク・タリグさんと出演者ら3人。番組では、「統治の成果を世界に示す絶好の機会」「日本は、会場内にパイワンの人々の家を作り、暮らしぶりを見せ物とした」などと報じたが、NHKは取材を通じて「人間動物園」の対象として放送することを説明しなかった。番組内で、博覧会に参加した男性の娘が「悲しいね」と語った場面も、単に父親の思い出を語っただけだったという。

台湾民間団体がNHKに抗議書

【6月26日 産経新聞3面】

【台北＝山本勲】台湾の民間団体「友愛グループ（台北市、陳絢暉会長）」は25日までに、NHKスペシャル「アジアの“一等国”」がグループ関係者の発言を偏向報道したとして抗議と訂正を求める文書を福地茂雄会長あてに郵送した。友愛グループは戦前の台湾で日本語教育を受けた世代を中心に「美しく正しい日本語を台湾に残そう」との趣旨で1990年代初めに発足、勉強会などの活動を続けてきた。

同グループによると、NHKはインタビューした元メンバーの柯徳三さんら友愛会関係者の発言中、日本を批判した部分だけを放映し台湾の人の心と日台関係を傷つけたという。

提訴：「NHKスペシャル」内容めぐり8389人 偏向と

【6月25日20時08分 毎日新聞】

戦前の日本による台湾統治を取り上げたNHKスペシャルは事実を捏造（ねつぞう）し、偏向した放送法違反の内容だとして、小田村四郎・元拓殖大総長ら8389人が25日、NHKを相手に1人当たり1万円の損害賠償を求めて東京地裁に提訴した。

番組は今年4月5日に放送された「シリーズ・JAPANデビュー 第1回アジアの“一等国”」で、証言や史料から統治を検証する内容。

訴状で原告は「台湾総督府民生局長だった後藤新平が産業発展に貢献したにもかかわらず、弾圧差別の首謀者としてのみ描いている」と主張。併合直後に起きた台湾人による暴動と日本軍による鎮圧について『日台戦争』と呼んでいるのは、弾圧の厳しさを印象づけようとするもので、事実を曲げないことなどを定めた放送法に違反する」と訴えている。

NHKは「番組の内容には問題がなかったと考えている」とコメントした。

台湾統治巡る番組「偏向」 8389人、NHKを提訴 【6月25日 21:21 朝日新聞】

日本の台湾統治をめぐるNHKの番組「アジアの“一等国”」が偏向し、公正さを期待した視聴者が精神的損害を受けたとして、小田村四郎・元拓大総長ら8389人が25日、NHKに対し、1人当たり1万円の損害賠償を求める訴訟を東京地裁に起こした。

訴状によると原告は、番組は「日台戦争」といった言葉を誤って使い、日本の統治時代に台湾の人が不当な扱いを受けたかのように偏って伝えた、などと主張している。原告はインターネットなどでの呼びかけを通じて集まった。

提訴に対し、NHKは「番組の内容には問題がなかったと考えている」との談話を出した。

番組で精神的損害、視聴者らがNHKを提訴 【6月25日 21:53 日テレニュース】

http://www1.ntv.co.jp/news/wmtram/dw/ng.html?m_url=090625102&n_url=138367

日本による台湾統治を扱った「NHK」の番組について、「期待に反した番組の放送で精神的な損害を受けた」として、大学教授らが25日、NHKに損害賠償を求める訴えを東京地裁に起こしました。

原告が問題としているのは、4月5日に放送された「シリーズ・JAPANデビュー」の第1回「アジアの“一等国”」です。原告は、日本による台湾の統治を扱ったこの番組について、取材相手の意図とは異なる形でインタビューを使用するなど、「極めて悪質で偏向したものだ」と主張しています。その上で、「期待に反した番組の放送で精神的損害を受けた」などとして、大学教授やその呼びかけに応じた視聴者ら約8400人が、NHKに対し、およそ8400万円の損害賠償を求めています。

この訴えに対し、NHKは「番組の内容には問題がなかったと考えています」とコメントしています。

「台湾統治で偏向報道」視聴者8千人がNHK提訴 【6月25日 22時05分 読売新聞】

日本の台湾統治を扱ったNHKの番組を巡り、全国の視聴者約8300人が25日、「事実と異なる偏向報道が行われた」として、NHKに対し、1人あたり1万円の慰謝料を求める訴えを東京地裁に起こした。

問題とされたのは、4月5日に放送された「シリーズJAPANデビュー」の第1回「アジアの“一等国”」。訴状によると、番組では台湾人に対する日本政

府の弾圧や差別が描かれていたが、原告らが出演した台湾人に確認したところ、本人の意図が歪曲されていたと主張。「NHKの手法は公平な報道を定めた放送法に違反する」と訴えている。

放送後、一部の原告がインターネットなどで視聴者に訴訟参加を呼び掛けた。

NHK広報局の話「訴状を受け取っておらずコメントできない。番組内容には問題がなかったと考えている」

NHK番組 訴訟を機に徹底検証せよ

【6月27日 産経新聞「主張」】

日本の台湾統治を取り上げた番組に偏向・歪曲（わいきょく）があったとして、視聴者らがNHKを相手取り、損害賠償請求の訴訟を起こした。

問題の番組は4月5日に放映されたNHKスペシャル「アジアの“一等国”」である。原告には台湾人も含まれている。「取材に応じた台湾人の話を一方的に都合良く編集している」と指摘し、具体的に台湾統治下の暴動を「日台戦争」と表現したり、先住民族を日英博覧会（1910年）に出演させた企画を「人間動物園」と表現したりしたことを例として挙げている。

いずれも聞き慣れない言葉だ。それをあえて使ったNHK側に戦前の日本と台湾の人々に対する悪意と偏見がうかがわれる。

NHKの取材に協力したのは旧制台北第一中学の卒業生たちだ。日本の良い面も悪い面も話したのに、悪い面だけが放送された、NHKにだまされた、などと訴えている。法廷では、NHKがどんな取材を行い、どう編集したかも明らかにしてほしい。

NHKによれば、この番組はアジアでいち早く近代国家を目指した日本がなぜ国際的に孤立し、敗戦を迎えたかを振り返るシリーズの1回目という。放送直後から、台湾統治をめぐる「一面的だ」などという批判が相次いでいた。

放送法3条は「意見が対立する問題は多くの角度から論点を明らかにすること」と定めている。まして、NHKの番組は公共放送としての公正さが一層求められる。訴訟を機に、NHK自身が徹底検証する必要がある。

NHKの経営委員会も一部委員がこの問題を提起したが、「経営には関係ない」と一蹴（いっしゅう）されたという。NHKの経営は視聴者の受信料で支えられている。憂慮しているのは、提訴した約8400人にとどまるまい。

NHKは平成13年1月、「問われる戦時性暴力」と題する番組を教育テレビで放送した。昭和天皇といわゆる「A級戦犯」を「強姦（ごうかん）と性奴隷制」の責任で裁いた民間法廷の模様を報じた内容だ。政治的圧力の有無に注目が集まったこともあり、肝心の番組内容については何も検証されないままだ。

最近、録画技術の進歩により、放送番組も新聞記事と同様、証拠保存が容易になった。それだけ視聴者のチェックの目も厳しくなっている。特に、NHKはそのことを強く自覚する必要がある。

台湾人出演者ら、NHKに抗議文

【7月4日 産経新聞】

NHKスペシャル「シリーズ JAPANデビュー 第1回『アジアの一等国』」（4月5日放送）が偏向している問題で、出演した柯徳三（か・とくぞう）さんら台湾人が3日、編集の偏向、歪曲（わききょく）がうかがえる」とする抗議文を、福地茂雄・NHK会長あてに郵送した。放送法は、放送後3ヵ月以内に、出演者などから放送局に請求があった場合、局が調査し、真実でない場合は訂正放送するよう定めている。

【台湾統治」認識で揺れる番組評価 NHKスペシャル：「アジアの“一等国”」
【7月6日 毎日新聞「メディア」】

日本による台湾統治を取り上げたNHKスペシャル（4月5日放送）の評価を巡る論議が政界に波及している。自民党議員が国会で番組内容を批判すれば、共産党の議員は良い番組だと述べ、評価は割れる。番組に関する訴訟も起きたが、NHKは「内容に問題はない」との姿勢を貫いている。

【「JAPANデビュー」取材班】

●国会では主張二分

国会で取り上げられたのは、鎖国を解き欧米列強に追いつこうとする近代日本の歩みを描く「シリーズ・JAPANデビュー」の1本目「アジアの“一等国”」。

日本にとって初の植民地だった台湾の半世紀に及ぶ統治を、2万6000冊に及ぶ台湾総督府文書や、欧米各国に残っていた文書などを基に検証し、日本とアジアのかかわりの原点を探った。

6月25日の参院総務委員会で、自民党の世耕弘成議員は「放送された内容は、私が知っている台湾の人々の対日観とあまりにかけ離れている。相当偏った取材をしたのではないかと思う」と番組批判を展開した。

世耕氏は、日英同盟下のロンドンで1910年に開かれた日英博覧会で、台湾の先住民が参加して暮らしぶりを紹介したイベントを取り上げた。番組がイベントについて、英仏が文明化した植民地の人々の宣伝の場とした「人間動物園」をまねたと紹介したことについて「当時そういう表現はされていなかった」と疑問を投げかけた。

また、番組に出演した台湾人の柯徳三さん（87）が放送後に受けた週刊誌や衛星放送局の取材に対し「植民地時代のマイナスとプラスの両方を話したのに番組では負の部分しか紹介されていない」などと語った内容を踏まえ、世耕氏は「コメント使用に問題があった」と指摘した。

一方、共産党の山下芳生議員は世耕氏とは正反対の評価だ。山下氏は同じ委

員会で「非常にいい番組だった。番組に登場する現在の台湾の人たちの表情を見ると、親日的と言われる台湾の人々の心の奥底にある複雑な思いが伝わった。歴史を直視し、互いに共有し、反省すべきは反省してこそ相互理解とより深い友好関係が構築できると感じた」と感想を述べた。

NHKの日向英実・放送総局長は委員会で、人間動物園について「私どもの集めている資料の中では使われている」と反論。柯さんのコメントについても「発言の趣旨を十分に反映している。恣意（しい）的な編集はしていない」と述べた。

●慰安婦番組も批判

「JAPANデビュー」を問題視する国会議員はどんな人たちか。

6月11日、番組に批判的な自民党の議員らが議連「公共放送のあり方について考える議員の会」を設立。会長は古屋圭司衆院議員、事務局長は稲田朋美衆院議員だ。古屋氏は「放送法に沿って番組が作られているかを検証していく」と語る。

同会には安倍晋三元首相、中川昭一前財務・金融相も参加。97年設立の議連「日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会」では、安倍氏が事務局長、中川氏は代表を務め、古屋氏も副幹事長だった関係にある。この会が発行した「歴史教科書への疑問」によると、中学校歴史教科書に従軍慰安婦の記述が残ることに疑問を持つ戦後世代を中心とした集まりだという。

安倍、中川、古屋の3氏は、従軍慰安婦を取り上げたNHK教育テレビ番組「E TV 2001 シリーズ戦争をどう裁くか・問われる戦時性暴力」（01年1月30日放送）を批判した。安倍氏は放送前にNHK放送総局長らと面会し「公平、公正にやってください」と要請。このことが、NHKの国会担当局長の現場への直接指示による番組改変につながったとされる。

安倍氏は自分のメールマガジンで「JAPANデビュー」について「『反日』で貫かれています。歴史認証抜きに『人間動物園』とか『日台戦争』といった新たな概念を作り上げ、イメージ操作を行い、これでもかと日本を貶（おとし）めています」と批判する。

稲田氏は保守系新人議員で結成した「伝統と創造の会」会長も務める。5月に産経新聞に掲載された、NHKに訂正放送などを求める意見広告に賛同した。

昨年春に上映中止が社会問題化した、靖国神社を舞台にしたドキュメンタリー「靖国 YASUKUNI」問題では、文化庁所管の独立行政法人が決めた750万円の助成を問題視した。

また今回、中山成彬・前国土交通相が会長を務める「日本の前途と歴史教育を考える議員の会」は、NHKに人間動物園の記述などに関する公開質問状を2回提出した。

●「世界史的再検証」

NHKが4月から始めた長期大型企画「プロジェクト JAPAN」は、ドキュメンタリーやドラマを3年間放送し「世界史的な視点」から日本近現代史を見つめ直すものという。「JAPANデビュー」は、その一環だ。

台湾には人間動物園に父親が参加した女性が存命している。ある男性は日本語教育の結果、今も中国・台湾語での文章を書けないという。番組はこうした現地取材で得た証言を紹介した。「親日的とも言われる台湾に今も残る日本統治の深い傷。今後、アジアの中で生きていく日本が分かち合わなければならない現実だ。過去と向き合う中から見えてくる未来」。そんなナレーションで番組は終わる。

日向英実・放送総局長は「JAPANデビュー」の狙いを「150年の近代化の中で西洋列強に肩を並べる努力をしてきた日本が、結果的に敗戦という悲惨な結末を迎えた歴史を改めて見つめることだ」と説明する。

「捏造（ねつぞう）、偏向番組だ」などとして放送後、日本李登輝友の会（小田村四郎会長）が抗議声明を出すなど複数の民間団体による抗議活動が広がった。全国のNHK施設の周辺では抗議デモが行われた。5月に東京であったNHK放送センター周辺でのデモ後、約100人が局内に侵入するなどの混乱もあり、NHKは主催者に抗議した。

6月には8389人に上る人たちが損害賠償を求める民事訴訟を東京地裁に起こした。NHKには「謝罪しなければ、出演者を殺す」などとする差出人不明のメールや手紙も複数届いているという。今のところ具体的な被害は出ていない。

NHK経営委員会の小林英明委員からも番組批判が出ている。小林委員は5月の委員会で、日台戦争という用語を使っていることについて「歴史的事実がない。報道は事実を曲げないことを規定した放送法に違反する」と指摘した。

放送法は、委員が個別番組に干渉することを禁止している。安倍氏が首相時代に任命した小林委員は、安倍氏のスキャンダルを報じた月刊誌「噂の真相」（休刊）を相手にした名誉棄損訴訟の代理人でもある。

一方、市民団体「開かれたNHKをめざす全国連絡会」（世話人、松田浩・元立命館大教授ら4人）は、番組を評価する。小林委員の発言を問題視するとともに、議連発足や訴訟、デモなどによって自主・自律の姿勢が損なわれないよう求める文書を7日にもNHKに提出する方針だ。

■番組が批判されている主な点とNHKの見解■

（1）人間動物園

1910年にロンドンで開かれた日英博覧会の会場に台湾の先住民族の家を造り、その暮らしぶりを展示したことを「人間動物園」という言葉で紹介した。これに対して、「日本は、人間動物園と呼んでいなかった」と抗議があった。NHKは当時の英仏で植民地の人々の日常生活を見せ物にすることを「人間動物園」と呼んでいたと説明。当時の日本の新聞報道や公式報告書をもとに、日本

も英仏をまねて先住民族の展示を「人間動物園として位置づけていた」と解釈したという。

(2) 日台戦争

日清戦争の結果 1895 年に日本が台湾を領有することになった。番組は、日本軍が派遣され、激しい抵抗を受けながら、全土を武力で平定するまでを「日台戦争」と表現した。「聞いたことがない言葉」「戦争という言葉は実態を表していない」などの批判が寄せられた。NHKは 1990 年代には、日本台湾学会で「日台戦争」という用語が多数説となり、研究書で使用されたり、日清戦争後も続く「戦時大本営条例」下での戦闘だった歴史的事実を根拠にしたという。

(3) 台湾でのインタビュー

出演していた柯徳三さんは「日本の台湾統治の功罪両面を話したが、取り上げられたのは罪の部分だけ」などと抗議していると一部で報道された。NHKは「恣意的編集はなく、柯さんらから直接の抗議は受けていない」としている。

台湾歌壇がNスぺに抗議 「排日的と誤解与える」

【8月11日 MSN産経ニュース】

NHKスペシャル「シリーズ・JAPANデビュー アジアの“一等国”」が「台湾をよく知らない人に排日的だと誤解を与える」として、出演した台湾人、日台友好団体などから批判が相次いでいる問題で、台湾歌壇の蔡焜燦代表らがNHKの福地茂雄会長に対して抗議状を提出していたことが分かった。

抗議状は60人の連署で、日本統治に関する番組の内容に訂正を求めている。抗議状に添えられた、日本語の和歌は以下の通り。

日本人になり切らんとせる人等指し反日と言ふ現なるかや（鄭●耀）

親日の台湾人に無情なる打撃あたへし君にくらしや（莊進源）

帰国せし米寿を迎ふる吾が恩師のひとり暮しに思ひ走らす（游細幼）

引き揚げの恩師見送る寂しさに拭ひし涙胸に残れる（李錦上）

同歌壇は「万葉の流れを台湾にとどめたい」と昭和44年に台北で創立した。

●=土へんに良

パイワン人も提訴、原告1万人突破 NHK台湾特集訴訟

【8月12日 産経新聞】

NHKスペシャル「シリーズ・JAPANデビュー アジアの“一等国”」に出演した台湾人などから番組内容に歪曲（わいきょく）があったと批判が相次いでいる問題で、出演した台湾少数民族のパイワン人らが番組で、民族の誇りを傷付けられたとして、NHKを相手取った集団訴訟に原告として加わることが11日、分かった。原告数は提訴後も増え続け、1万人を突破した。

訴訟に参加するのは、台湾南部のクスクス村のパイワン人出演者ら4人。番組では、1910年に開催された日英博覧会の写真に「人間動物園」の文字をかぶせ、「イギリスやフランスは博覧会などで植民地の人々を盛んに見せ物にしています。人を展示する「人間動物園」と呼ばれました」などとするナレーションを、パイワン人へのインタビューとともに放送。「日本政府がパイワン人の実演を『人間動物園』と呼んだことはない」（訴状）と批判が出ていた。

関係者によると、訴訟に加わるパイワン人4人のうち、2人は番組に出演。インタビューの際、「人間動物園」に関する十分な説明を受けておらず、単に写真を見て懐かしいと涙ながらに語ったシーンが歪曲されて伝えられたとしている。残る2人のうち1人は親戚（しんせき）が日英博覧会に実際に参加して、それが今でも自分たちの誇りであるにもかかわらずNHKに「人間動物園」とおとしめられ、名誉を傷付けられたとしている。もう1人はパイワン人の地元名士となる元郷長で、番組でパイワン人の名誉と誇りを傷付けられた一としている。

日台国民集会でNスペ捏造報道に抗議 集団提訴、原告団1万人超す 台湾のパイワン族代表、「人間動物園」虚偽報道を批判 【8月13日 世界日報】

【東京】日本の台湾統治を扱ったNHKスペシャル「シリーズJAPANデビュー」の第1回「アジアの“一等国”」（4月5日放映）の内容を事実の捏造（ねつぞう）を含んだ虚偽報道だと抗議する日台国民集会在12日、都内の豊島公会堂で開催され約350人が集まった。

同集会では台湾からパイワン族代表のサルガイ・チャパヤル医師が登壇し、NHKが放映した「アジアの“一等国”」で、日英博覧会（1910年）におけるパイワン族の生活状況実演を「人間動物園」と表現したことに対し、「パイワン族は名誉なこととして誇りを持って博覧会に出演した」と述べ、「『人間動物園』で見世物にしたという表現は虚偽報道だ」と批判しNHKに対し謝罪を要求した。李氏は日英博覧会参加者の縁者にあたる。

なおNHKはこの問題で6月下旬、小田村四郎・元拓殖大学総長のほか台湾人140人を含む視聴者ら8400人によって東京地裁に集団提訴されているが、さらに「アジアの“一等国”」に出演したパイワン族ら4人が訴訟に加わるなど12日現在、原告団は1万0058人に達した。

パイワン人を原告団が調査 【8月29日 産経新聞】

【クスクス（台湾）＝牛田久美】NHKスペシャル「シリーズ・JAPANデビュー アジアの“一等国”」に出演した台湾人などから番組内容が事実と異なると批判が相次いでいる問題で、NHKを相手取って集団民事訴訟を起こし

ている原告団は 28 日、台湾南部のクスクス村に入り、出演した台湾少数民族のパイワン人から聞き取り調査を行った。

パイワン族の出演者は、NHKが人間動物園でパイワン人を見せ物にしたと放送したことについて、「番組を見るまで人間動物園という言葉を知らなかった。(放送された)『かなしいね』などと述べた自分のコメントは、人間動物園に対して(悲しいと)述べたものではなく、(取材者から示された写真の)亡父を見て『かなしい』と語ったもの」などと説明した。

また、パイワン人の出演者側は原告団の尾崎幸広弁護士に対し、同村がある牡丹郷(ぼたんごう)で 24 人の部落の長が参加を予定していると伝えた。